



発行所
三池炭鉱労組
大牟田市不知火町2
電話 3033 番
3034 番
編集兼 山下 開
発行人
年間600円 送料共

妥協する必要のない理論をもつもののみが、必要な妥協をすることができると。

新しい仲間と共に闘う

配転合理 15分會(宮浦) 固く意志統一

宮浦の五十坪小切羽の廃止に伴う作業員の全員配転と共に、同鉱炭炭作業の縮小(近々全廃)に伴う全人員の配転という、会社側の新しい合理化攻撃は、かえって現場の労働者を団結させ、当の十五分會(宮浦)は、この第一に、われわれはあくまで三池炭組の組合員であることの自覚を堅持する。第二に、われわれは配転問題については、配転からの個人的な交渉をも断固拒否し、あくまで組合の指示のもとで統一して行動する。第三に、われわれはたとえどんな現場に配転されようと、次の現場で新しい仲間たちと団結し闘う」という強い意志統一を行なった。

すでに始まった攻撃

宮浦の選炭は、大正十二年三月、同鉱炭坑の開き・操業開始と同時に、その作業を始めた。以来四、五十年という長い間、労働者は日、洋一古かといえるでしょう。三池炭組の組合員は三十二人、長い人で二十三年(山名勝馬さん)四十九才。三池炭組組合員も石炭塊を相手に、つくり上げた三井鉱山

殺人合理化の体制

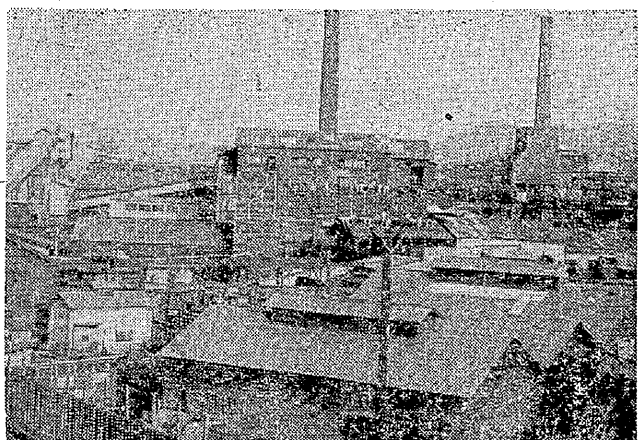
つくり上げた三井鉱山

殺人犯が指導部に

ツノ内は前

三井鉱山は十一月二十九日の株主総会で新人事を決定したが、その新体制は三十八年の大爆発の責任をこまかすために、一時その席をはずしていた栗木直系を再び指導部に、ガス爆発をおこしたあの殺人合理化の体制を、政府の石炭政策をひかえて再確立したことを示している。

あらたに三池炭組所長となった中村文平は政府の石炭政策について、三井鉱山は十一月十二日「くろい新聞」でつぎのように今



まんなかの建て物が宮浦炭場。そこには四十年間にわたる労働者の苦しみと闘いの歴史が刻まれている。

配転が待つものは?

解説

いま宮浦で五十坪小切羽と選炭場の配転が問題を生んでいるが、このような配転を、

いるが、数日前から一方三十三人だった選炭作業の規定人員を二十八人に減らすなど、早くも具体的な攻撃がはじまった。

こんどの配転を通じての会社の攻撃は、第一に賃上げがある。残

後の方針を示している。

「わが社の四十一年上期の決算は、約五億八千万円の赤字と公表されました。もっとも当期だけの損益をみますと約七億八千万円の赤字ですが、(合理化資金のために赤字となった)とのべ、さらに「増産による増収はあまり望めなくなっている」ので、質の向上をはからねばなりません。つまり出炭量をあげるとともに、原価(石炭を出すための金)を引き下げるのが三池炭組の課題であります」

これは、人員増や機械化など一応増産体制をとった会社が、今後は労働者をムチでコキ使い、能

率をあげさせることをよくいあらわしている。ふたたび「炭じん爆発」が起きる危険はせまっています。

政府も不起訴で支援

三井炭組の刑事責任を追及する殺人罪としての告訴は、去年八月十三日検察権力により不起訴とされたが、十一月八日、さらに福岡高検に告訴、告発が遺族代表ならびに総評、炭労、三池炭組によって行なわれた。

しかし、三井の虐殺を支援する検察は十二月五日、再びこれを不起訴処分し、その正体をあきらかにした。

金もあてない(実質的には賃下げになっている)という、

えんなんに好条件と思われる現場につかされようと、一、二の別なく必ずや高い密度の労働量がおっかぶさってこすにはいなし。

その三池炭組の組合員に対しては、例の差別配転が待っている。東副分會長は「その後の向こう側の微妙な動きから見て、会社は第二組合員の人たちを明らかに特別扱いし、組合に配転先として提案した以外の現場に、その人たちがやることを考えているようだ」と語り、さらに「反対にわれわれを悪い条件の現場に配転し、こどもあろうにそれをテコとして三池炭組からたたき落とす攻撃をかけてくることを考えられる」と警戒している。

このような攻撃に対して同現場の十五分會では「それならよし」と意志統一をはかり、これからはいっそう団結を固めて闘ってゆくことを誓っている。

とかく「金もあてないまでも通らねば……」という気持ちが強い新労働組合員に、日々に加わる労働強化は耐え難く、「こげんき」かなら、ゼンどうじゃなか」という悲鳴があがっている。

したがって仕事をやむ者がふえ、そのことがまた人手不足に拍をかけるという悪循環をまたみこの会社のあまりにも非道な合理化攻撃のため、去年四月には新労働組合員の間から一人の尊厳犠牲をさへ生じた。(田上茂雄さんがその人で、田上さんは電車を運転しながら心臓マヒを起して死んだ)このような不当な労働を押しつけながら、それを遂行するために

強める抵抗闘争

宮浦炭組における配転合理化という新たな会社の攻撃に対して、三池炭組は今後宮浦支部がストライキをうちつけていくことで抵抗闘争を強めるが、そのストラ

イキの規模は坑内第一番が一回、坑外全員が一回(いずれも時限スト)さらに毎週二番の時限スト、三番の方別ストなどである。なお十二日、三池炭組の全組織がストライキをうってこれからのたたかいのための団結を固めた。

オルグ民泊

編集部から

オルグ民泊の受け入れについて「オルグ民泊は効果があるのか。」

(前略) いままでは会社内のこと仕事のこととは絶対に家庭内に持ちこんではいけないと考えていました。しかし、三池炭組をみてこの考えがまちがっていたことに気がつきました。家族の理解なしには立派な労働組合の活動家にはなれない。また家族を含めた力の強大さを認識しました。この点を反省し、いま家族とも話し合いをしていきます。(後略)

(日本航空整備労働組 清水光二) 根性ある恋人

(前略) いままでは、これほど根性のある恋人に出逢ったこととありませんでした。百聞は一見にしかず、昔の人は立派なことをいっていたのです。直接目で見て聞き、肌で感じた。三池の素朴な生活は、私の食生活にまで到底表現することができません。百の理論を聞くよりどれほど自分自身にプラスになったことか(後略)

(全通大分 富田 初美)

来年もぜひ三池へ

(前略) 私は来年も三池に行きたい。おしよせる合理化の波への抵抗、組織作りなど諸々の問題をお土産代りにして、本当の労働者のいる三池に新しい仲間とともに。

(京都 岩佐国子)

会社は三池炭組の現場の組合員の仲間同志の連帯感情を巧みに利用しかねないほど、悪質な意図が見え隠れしている。この現場がどんなに耐え難い労働強化を押しつけられていても、その現場の責任の地位にあるはずの配転先、なるべくよくつこうとはしないほどだといえる。

いま宮浦で二つの現場で配転の問題が生じてきている。四山炭組の配転に見るこの現実を改めて注目しなければならぬ。あまりに非道な会社の合理化攻撃に、四山の坑内ではいま三池炭組と新労働組の別々、怒りが広がっている。